

## 現状・課題

### 生産

- **担い手の減少**  
長期的な価格低迷等による後継者不足、担い手の高齢化が進行。年間を通じた摘採、需要に対応した生産への転換により、経営の安定化が不可欠。
- **茶園面積、生産量の減少**  
担い手の減少に伴い、茶園面積と荒茶生産量は年々減少。基盤整備や集積・集約化、スマート技術の導入を進め、省力型茶園管理体制の構築が必要。

### 輸出

- **海外需要の増加と供給不足**  
抹茶を中心に海外需要が拡大し、令和7年の輸出額は721億円と、過去最高だった令和6年の約2倍に急増。海外需要に対応した生産拡大・供給体制の構築が急務。
- **ブランドの未確立、海外市場での認知度不足**  
「静岡茶」の世界における認知度が低い。本来価値をわかりやすく伝えるコンセプトの整理、グローバルブランドの構築が必須。

### 流通・文化

- **荒茶価格の変動**  
長期的な価格低迷から、令和7年産は秋冬番茶の価格が前年の5倍となり、年間平均価格も前年比で約8割上昇。需要動向を踏まえた計画的な生産が必要。
- **生活様式の変化、多様化**  
リーフ茶の消費量は減少する一方、手軽に飲めるティーバッグやペットボトル緑茶の消費は増加。伝統的な飲用文化を継承しつつ、新たな生活様式に即した需要創出が必要。

## 今後の趨勢

### <需要予測>

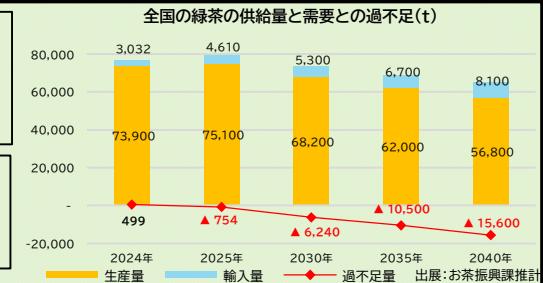
- 人口減少等に伴い、急須で淹れるリーフ茶の需要は減少予測。
- 手軽に飲めるティーバッグ、ドリンク原料は増加予測。
- 抹茶・粉末茶は輸出需要の拡大により増加予測。
- 輸出を含めた緑茶の需要量は拡大することが見込まれる。

### <供給量予測>

- 担い手不足や茶園面積の減少により、荒茶生産量は減少予測。
- 輸入量は国内生産量の減少により徐々に増加すると予測。

### <需給バランス予測>

緑茶の需要量に対して供給量が大きく不足することが見込まれる。



## 施策の方向性

## 「稼げる茶業」の確立に向け、中長期的な視点を踏まえ、実践的な施策を展開し、構造改革を図る

### I 茶業の構造改革による生産力の強化

- 需要に対応した生産への転換による「稼げる茶業」の構築**
  - 多様な需要に対応した茶生産体制の強化
  - 茶園の基盤整備、集積・集約化
  - 有機栽培への転換の推進
  - スマート農業の導入等による省人・省力化
  - 気候変動等のリスクへの対応の推進
- オープンイノベーションによる新たな価値の創造**
  - ChaOIプロジェクトによる新たな価値の創造と需要の創出
  - ChaOI-PARC(茶業研究センター)を核とした先端技術開発

### II 輸出拡大と供給力の強化

- 輸出需要に対応した生産拡大**
  - 品種転換等によるてん茶や有機茶の生産拡大
  - 輸出生産拠点の拡大と支援
- 海外市場の開拓の推進**
  - 海外販路開拓の推進
  - 輸出に取り組む事業者へのサポート体制強化

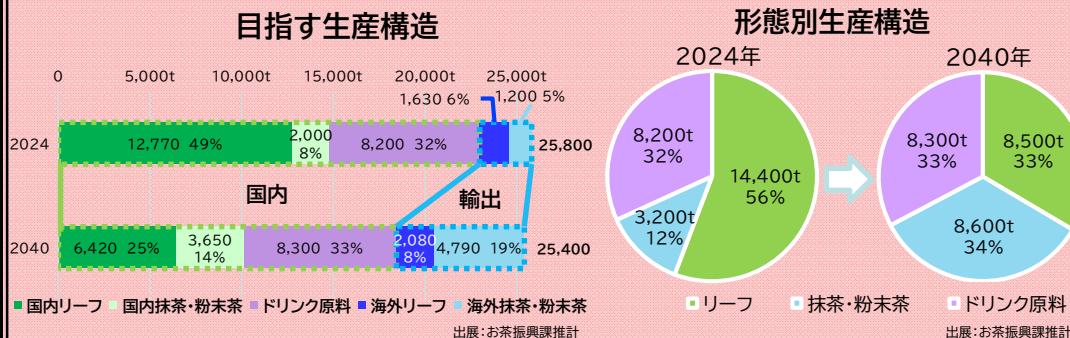


### III 静岡茶ブランドの構築と文化の継承

- 世界に通用する静岡茶ブランドの構築による競争力強化**
  - 世界に向けた戦略的なプロモーションの展開
  - 高付加価値化ティーツーリズムなど魅力ある消費体験の創出
  - 顧客接点の拡大に向けたマーケティング強化
- お茶の文化の振興と理解の増進**
  - 世界農業遺産「静岡の茶草場農法」の維持・継承
  - 「ふじのくに茶の都ミュージアム」による茶の魅力・歴史・文化の発信
  - 静岡茶の愛飲の推進
  - 国登録無形文化財「手揉み製茶技術」の継承

## 目指す姿

## 静岡茶の本来価値を発信し、世界で愛され、稼げる茶業へ ~世界から選ばれる静岡茶を目指して(案)



- 生産量は現状と同等を維持(荒茶生産量)  
2024:25,800t → 2040:25,400t
- 需要に対応した生産構造への転換(抹茶・粉末茶の生産量)  
2024:3,200t → 2040:8,600t
- 輸出需要への対応(輸出向け荒茶生産量)  
2024:2,830t → 2040:6,870t

○計画期間の目標値 (2025年-2028年)

主な目標値	現状値(R6)	R10目標値
県内事業者の茶輸出額	106億円	154億円
多様な需要に対応した優良品種への転換	230ha	418ha